

作成日 2002年 6月 1日  
改定日 2010年 7月 26日

## 製品安全データシート

### 1. 製品及び会社情報

製品名	シェル カシーダ フルード PL(スプレー)
	主用途として食品機械用潤滑剤
会社名	株式会社レッドアンドイエロー
住所	東京都港区台場2-3-2 台場フロンティアビル
担当部門	営業部 フードチーム
電話番号	03-5531-5580
FAX番号	03-5531-2483
緊急連絡先	営業部 電話番号03-5531-5580
	受付時間月曜日～金曜日 9:00-17:30
整理番号	466096

### 2. 組成、成分情報

単一製品・混合物の区別	混合物
化学名又は一般名	石油系及び合成炭化水素、添加剤
成分及び含有量	石油系溶剤 50～60質量%
	潤滑油合成基油 10～15質量%
	潤滑油添加剤 1質量%以下
	LPG 30～40質量%
化学特性(化学式)	特定できない。
官報公示整理番号	企業秘密なので記載できない。
CAS No.	企業秘密なので記載できない。
危険有害成分	
化学物質管理促進法(PRTR法)	非該当
労働安全衛生法	第57条の2 通知対象物 政令番号第482号 ブタン 5～30質量%
毒物劇物取締法	対象物ではない。

### 3. 危険有害性の要約

最重要危険有害性:	
有害性:	・ 現在のところ有用な情報なし。
環境影響:	・ 現在のところ有用な情報なし。
物理的及び化学的危険性:	・ 引火しやすく、空気との爆発性混合物を形成する。熱、火花及び火災で着火することがある。
特定の危険有害性:	
主要な徴候:	・ 頭痛、嘔吐、めまい、下痢、発赤。
分類の名称 (分類基準は日本式):	・ 引火性液体。可燃性ガス。高压ガス。
想定される非常事態の概要:	・ 現在のところ有用な情報なし。

### 4. 応急措置

吸入した場合:	・ 新鮮な空気のある場所に移す。体を毛布等でおおい、保温して安静を保ち、必要なら医師の手当てを受ける。呼吸が停止している場合には人工呼吸を行い、呼吸困難な場合には酸素吸入を行なう。
皮膚に付着した場合:	・ 石鹼と水で付着した部分を洗う。もし皮膚に炎症が生じた場合に

目に入った場合:	<p>は医師の手当てを受ける。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 清浄な水で最低15分間目を洗浄した後、医師の手当てを受ける。コンタクトレンズを使用している場合は、固着していない限り、取り除いて洗浄する。洗眼の際、まぶたを指でよく開いて、眼球、まぶたのすみずみまで水が行きわたるように洗浄する。</li> </ul>
飲み込んだ場合:	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 無理に吐かせてはならない。揮発性が強いので吐き出させるとかえって肺への吸引等の危険が増す。コップ1～2杯の水を飲ませ、速やかに医師の手当てを受ける。被災者に意識がない場合には、口から何も与えてはいけな。嘔吐が自然に起きたときは、気道への吸入が起きないように身体を傾斜させる。</li> </ul>
最も重要な徴候及び症状に関する簡潔な情報:	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 飲み込むと、下痢、嘔吐する可能性がある。</li> <li>・ 目に入ると炎症を起こす可能性がある。</li> <li>・ 皮膚に触れると炎症を起こす可能性がある。</li> <li>・ ミストを吸入すると気分が悪くなる可能性がある。</li> </ul>
応急措置をする者の保護: 医師に対する特別注意事項:	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 現在のところ有用な情報なし。</li> <li>・ 現在のところ有用な情報なし。</li> </ul>

## 5. 火災時の措置

消火剤:	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 霧状の強化液、泡、粉末又は炭酸ガス消火剤が有効である。</li> <li>2. 初期の火災には、粉末、炭酸ガス消火剤を用いる。</li> <li>3. 大規模火災の際には、泡消火剤を用いて空気を遮断することが有効である。</li> </ol>
使ってはならない消火剤: 火災時の特定危険有害性: 特定の消火方法:	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 棒状の水を用いてはならない。火災を拡大し危険な場合がある。</li> <li>・ 現在のところ有用な情報なし。</li> </ul> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 火元への燃焼源を断つ。</li> <li>2. 周囲の設備等に散水して冷却する。</li> <li>3. 危険を伴わず実施できるなら、火災区域からの製品を移動する。</li> <li>4. 火災発生場所の周辺に関係者以外の立ち入りを禁止する。</li> <li>5. 火災の現場にエアゾール容器があると破裂する恐れがあるので、消火活動には距離を十分取ること。</li> <li>6. 高温にさらされる製品容器に水をかけて冷却する。</li> </ol>
消火を行う者の保護:	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 消火作業の際は、風上から行い必ず保護具を着用する。</li> </ul>

## 6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項:	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 少量の場合:作業の際には消火用保護具を着用する。</li> <li>2. 多量の場合:風下の人を避難させる。漏洩した場所の周辺にロープを張るなどして、人の立ち入りを禁止する。作業の際には、必ず保護具を着用する。風下で作業をする。</li> </ol>
環境に対する注意事項:	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 河川・下水道等に排出されないよう留意する。</li> <li>2. 海上の場合、薬剤を用いる場合には、運輸省令で定める技術上の基準に適合したものでなければならない。</li> </ol>
除去方法:	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 周辺の着火源を速やかに取り除く。</li> <li>2. 少量の場合は、土砂、ウエス等に吸収させ回収し、その後完全に拭き取る。</li> <li>3. 多量の場合は、漏洩した場所の周辺にはロープを張るなどして人の立ち入りを禁止する。漏洩した液は土砂などでその流れを止め、安全な場所に導いた後、液の表面を泡などで覆い、出来るだけ空容器に回収する。</li> <li>4. 海上の場合、オイルフェンスを展開して拡散を防止し、吸収マットなどで吸い取る。薬剤を用いる場合には運輸省令で定める技術上の基準に適合したものでなければならない。</li> </ol>

- 二次災害の防止策:
1. 漏洩時は事故の未然防止及び拡大防止を図る目的で、速やかに関係機関に通報する。
  2. 周辺の熱、炎、スパークなど着火源を速やかに取り除くとともに消火剤を準備する。

## 7. 取扱い及び保管上の注意

### 取扱い:

#### 技術的対策:

1. 指定数量以上の量を取扱う場合には、法で定められた基準に満足する製造所、貯蔵所、取扱所で行う。
2. 炎、火花または高温体との接触を避けるとともに、みだりに蒸気を発散させないこと。
3. 静電気対策を行い、作業衣、靴等も導電性の物を用いる。この物質は静電気を帯電する傾向があるので注意する。
4. 皮膚に触れたり、目に入る可能性がある場合は、保護具を着用する。
5. ミストが発生する場合は、呼吸器具等を使用してミストを吸入しない。
6. 40℃以上になるところには保管しない。
7. 作業環境測定を行なうことが望ましい。

#### 注意事項:

1. 製品から発生した蒸気は空気より重いので滞留しやすい。そのため換気および火気などへの注意が必要である。
2. 蒸気の発散を出来るだけ抑え、作業環境を許容濃度以下に保つようにする。
3. 密閉された装置、または局所排気装置を使用する。
4. 取扱いは換気の良い場所で行なう。屋外では出来るだけ風上から作業する。

#### 安全取扱い注意事項:

1. 高温物、スパーク、火炎を避け、強酸化剤との接触を避ける。
2. 使用済みの容器は一定の場所を定めて集積する。
3. 容器を転倒させ、落下させ、衝撃を加え等の粗暴な取扱いをしない。

### 保管:

#### 適切な保管条件:

1. 指定数量以上の量を保管する場合には、消防法で定められた基準に満足する貯蔵所とする。
2. 直射日光を避け、換気の良い場所に保管し、密閉して、空気との接触を避ける。40℃以上になるところに保管しないこと。
3. 危険物の表示をして保管する。
4. 熱、スパーク、火炎並びに静電気蓄積を避ける。

#### 適切な技術的対策:

#### 注意事項:

- ・ 保管場所で使用する電気器具は防爆構造とし、器具類は接地する。
- ・ ハロゲン類、強酸類、アルカリ類、酸化性物質との接触並びに同一場所での保管を避ける。

#### 安全な容器包装材料:

1. 空容器に圧力をかけない。圧力をかけると破裂することがある。
2. 容器は、溶接、加熱、穴あけ又は切断しない。爆発を伴って残留物が発火することがある。

## 8. 暴露防止及び保護措置

### 設備対策:

1. ミストが発生する場合は発生源の密閉化、又は排気装置を設ける。
2. 取扱い場所の近くに眼の洗浄及び身体洗浄の為の設備を設置する。

### 管理濃度:

### 許容濃度:

- ・ 設定されていない。
- 100ppm(作業環境評価基準:労働省告示代79号、昭和63年9月1日)

### 保護具:

#### 呼吸器用の保護具:

- ・ 必要に応じて防毒マスク(有機ガス用)送気マスク、空気呼吸器を着用する。

#### 手の保護具:

- ・ 耐溶剤性(不浸透性)の手袋を着用する。

#### 目の保護具:

- ・ ゴーグルを着用する。

#### 皮膚及び身体の保護具:

- ・ 保護服、保護長靴(帯電防止用)、保護前掛け等を着用する。

適切な衛生対策: 

- ・ 濡れた衣服は脱ぎ、完全に洗浄してから再使用する。

## 9. 物理的及び化学的性質

### 物理的状态

形状:	液体(容器内) LPG、溶剤揮発後も液体。
色:	無色～淡黄色 透明
臭い:	臭気あり
物理的状态が変化する特定の温度/温度範囲	
凝固点:	データなし (流動点: -60°C以下)
分解温度:	データなし
引火点:	40°C以上 (PMCC) (但しLPGを含んだ状態の場合は0°C以下)
発火点:	データなし
爆発特性	
爆発限界	下限: 1. 1容量%(推定値) 上限: 9. 5容量%(推定値)
蒸気密度:	データなし
密度:	約0. 78 g/cm <sup>3</sup> (15°C)
溶解性	
水に対する溶解性	不溶
オクタノール/水分配係数	データなし
その他のデータ	
揮発性	あり
初留点:	35°C以下(推定)
流動点:	-60°C以下

## 10. 安定性及び反応性

安定性:	・ 通常の条件では安定。
反応性:	・ 強酸化剤及び強過酸化剤との接触を避ける。
避けるべき条件:	・ 高温、火炎、スパーク及び着火源。
避けるべき材料:	・ 強酸化剤及び苛性ソーダ等のアルカリ金属水酸化物との配合。
危険有害な分解生成物:	・ 燃焼等により、一酸化炭素等の有害ガスを発生する恐れあり。
その他:	・ 現在のところ有用な情報なし。

## 11. 有害性情報

急性毒性:	・ 経口 ラット LD <sub>50</sub> 5g/kg以上(推定値)
局所効果:	・ 長期間または繰返し皮膚、目に接触した場合は炎症を起こす恐れがある。刺激性あり。
感受性:	・ 現在のところ有用な情報なし。
慢性毒性・長期毒性:	・ 現在のところ有用な情報なし。
発がん性:	・ 基油: OSHA による評価: 「使用している基油は高度精製基油であり、IARC では、グループ 3 に分類(ヒトに対して発がん性について分類できない)」(文献5) 添加剤: 現在のところ有用な情報なし。
変異原性:	・ 現在のところ有用な情報なし。
催奇形性:	・ 現在のところ有用な情報なし。
生殖毒性:	・ 現在のところ有用な情報なし。
その他:	・ 飲み込むと下痢、嘔吐する可能性がある。 目に入ると炎症を起こす可能性がある。 皮膚に触れると炎症を起こす可能性がある。 ミストを吸入すると気分が悪くなる可能性がある。 水と反応して有害なガスを発生する等の情報は現在のところ有用な情報なし。

## 12. 環境影響情報

- |          |                        |
|----------|------------------------|
| 移動性:     | ・ 物理化学的性質からみて、大気に移動する。 |
| 残留性/分解性: | ・ 現在のところ有用な情報なし。       |
| 生体蓄積性:   | ・ 現在のところ有用な情報なし。       |
| 生態毒性:    | ・ 現在のところ有用な情報なし。       |
| 魚毒性:     | ・ 現在のところ有用な情報なし。       |
| その他:     | ・ 現在のところ有用な情報なし。       |

## 13. 廃棄上の注意

1. 事業者は産業廃棄物を自ら処理するか、又は都道府県知事の許可を受けた産業廃棄物処理業者、もしくは地方公共団体がその処理を行っている場合にはそこに委託して処理する。
2. 投棄禁止。
3. 埋立て処分を行なう場合には、あらかじめ焼却設備を用いて焼却し、その燃え殻については、「廃棄物の処理及び清掃に関する法律施行令」に定められた基準以下であることを確認しなければならない。
4. 燃焼する場合は、安全な場所で、かつ、燃焼または爆発によって他に危害または損害を及ぼす恐れのない方法で行うと共に、見張り人をつける。
5. 火気のない屋外で噴射音が消えるまでボタンを押し、ガスを抜いて法令に従い、適正に処理すること。

## 14. 輸送上の注意

- |        |  |
|--------|--|
| 国内規制:  | ・ 下記、輸送に関する国内法規制に該当するので、各法の規定に従った容器、積載方法により輸送する。   |
| 陸上:    | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 消防法（第4類第二石油類）(非水溶性液体) (危険等級Ⅲ)</li> <li>容器表示:                             <ul style="list-style-type: none"> <li>一 危険物の品名、危険物、第4類第2石油類、危険等級Ⅲ、潤滑油</li> <li>二 (数量)</li> <li>三 火気厳禁</li> </ul> </li> <li>労働安全衛生法 通知対象物</li> </ul> |
| 国連分類:  | ・ 高圧ガス(クラス2)   |
| 国連番号:  | ・ 1950(エアゾール)  |
| 追加の規制: | ・ 危険物の規制に関する規則別表3の2 金属性容器  |

## 15. 適用法令

- |                  |   |
|------------------|---|
| 国内法令:            |   |
| 消防法              | 危険物第4類第二石油類(非水溶性)                                     |
| 労働安全衛生法          | 通知対象物   |
| 海洋汚染防止法          | 油分排出規制(原則禁止)  |
| 下水道法             | 鉱油類排出規制(5mg/L)  |
| 水質汚濁防止法          | 油分排出規制(5mg/L 許容濃度)                                    |
|                  | ノルマルヘキサン抽出分として検出される                                   |
| 廃棄物の処理及び清掃に関する法律 | 産業廃棄物規則(拡散、流出の禁止)                                     |
| 海外法令:            |   |
| 米国食品添加物規則        | 21.CFR 178.3570 に適合                                   |
| NSFによる登録         | Nonfood Compounds Program Listed Category Code H1 に登録 |
| USDA(米国農務省)による規準 | USDA Group H1 に適合                                     |
- (Lubricants with incidental food contact within official establishments operating under the Federal meat

and poultry inspection program)

---

## 16. その他の情報

### 引用文献

- 1.ANSI Z 129.1-1994 American National Standards Institute. (米国国家規格協会)
  - 2.新・絵で見る中毒110番 (保健同人社)
  - 3.許容濃度の勧告 (2004) 日本産業衛生学会 産業衛生学会誌
  - 4.Thresholds limit values for chemical substances and physical agents and biological exposure indices, ACGIH(2004)
  - 5.IARC MONOGRAPHS ON THE EVALUATION OF THE CARCINOGENIC RISK OF CHEMICALS TO HUMANS : VOLUME 33
  - 6.EC理事会指令「67/548/EEC」の付属書 I「危険な物質リスト」
  - 7.製品安全データシートの作成指針 (改訂版)(日本化学工業協会)
- 

製品安全データシートは、危険有害な化学製品について、安全な取扱いを確保するための参考情報として、取扱う事業者提供されるものです。

取扱う事業者は、これを参考として、自らの責任において、個々の取扱い等の実態に応じた適切な処置を講ずることが必要であることを理解した上で、活用されるようお願いいたします。

従って、本データシートそのものは、安全の保証書ではありません。